

緊急通報システム補足説明（人感センサ）

1. 高齢特定目的住戸、車椅子住戸には生活見守りのための緊急通報システムが設置されています。
住戸内の各種警報を戸外に知らせるとともに、警備会社へ自動通報します。
2. 住戸内の通路部分（トイレ入口周辺）に人感センサが設置されており、このセンサが12時間以内に人の動きを感知しないと自動的に戸外へ警報が出ます。
3. 外出時は外から施錠するだけで不在モードに切り替わるため12時間以上帰宅しなくても警報が出ることはありません。
4. 玄関付近の在室ボタンは、中に人を残し外から施錠する時に使用します。
在室ボタンを押すと、外から施錠しても不在モードにはならず、システムは稼働します。
5. 戸外に警報が出ている場合は、緊急解錠キースイッチの操作により、玄関鍵を解錠して安否を確認する事ができます。
また、玄関扉を閉めた状態で緊急解錠キースイッチを再び操作すると施錠することもできます。
6. 警報は、玄関付近の復旧ボタンで停止することができます。

（生活する上での注意事項について）

1. 人感センサの下を12時間以内に通過する事を心がけてください。
トイレを利用されると自然に人の動きを感知することになります。
2. 在室ボタン（緑色ボタン）を押すと、外から鍵を閉めてもシステムが作動しますので、普段は押さない様にしてください。
3. 誤ってコールボタンを押した場合は、落ち着いてボタン上部の「取消」ボタンを押してください。
4. どのコールボタンを押したか分からない時は、玄関の「復旧」ボタンを押してください。

